

魚津 きときとスポーツプラン

Sports Plan



平成 25 年 3 月

魚津市教育委員会

ごあいさつ

スポーツには体力向上や健康増進はもとより、人々に夢や感動を与えるとともに、住民同士の交流を促進するなど、多くの社会的意義があります。スポーツに親しむことは、人生をより豊かに充実したものとし、生活に活気を溢れさせ、活力ある街づくりに大きな役割が期待されることから、きわめて重要であると考えられます。

魚津市では、平成15年度から10年間の計画である「魚津市生涯スポーツプラン」に基づいて、「生涯スポーツ社会の実現」の目標に向けて施策を推進してまいりました。

しかし、この10年間に於いて、市民のスポーツニーズは多様化し、国においては平成23年6月に「スポーツ振興法」を全面改定した「スポーツ基本法」が制定され、平成24年3月には「スポーツ基本計画」が策定されました。ここでは、スポーツが果たす役割の重要性や、行政、学校、スポーツ関連団体などが連携・協働して、スポーツの推進に取り組むことの必要性が示されています。

これらの社会の変化に対応するため、このたび市では新たなスポーツプランである、「魚津 きときとスポーツプラン」を策定しました。このプランでは、「スポーツでつなごう きときと魚津のまちづくり」を基本目標とし、その実現のため「子どもの体力向上」、「生涯スポーツの推進」、「競技スポーツの推進」を基本方針としています。

今後、市民がそれぞれのライフスタイルに応じて、自主的、継続的にスポーツに親しむことができる社会を実現するために、教育機関や関係団体と連携・協力し、施策を推進してまいりたいと考えております。プランの推進に当たって市民の皆さまの多大なるご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

終わりに、このプラン策定にあたりご尽力いただきました魚津市スポーツ推進審議会委員、本プランの策定委員の皆様方をはじめ、アンケートにご協力を頂いた市民の皆様、そして貴重なご意見をお寄せいただきました市民の皆様に心から感謝を申し上げます。

平成25年3月

魚津市教育委員会

教育長 長 島 潔

魚津 きときとスポーツプランの概要

基本目標

「スポーツでつなごう きときと魚津のまちづくり」

基本方針Ⅰ 子どもの体力向上

子どもの体力向上を図るとともに、子どもたちがスポーツを通じて、健全に成長する一助となるような取り組みに努めます。

【具体的方策】

- ① 学校ごとの特色ある運動の実践と、その成果発表会、研究発表会の開催
- ② 体力づくりノート「みんなでチャレンジ3015」の積極的な活用
- ③ 学校の休憩時間の体育館、グラウンドの積極的な利用
- ④ スポーツクラブ、スポーツ少年団等の情報発信と加入促進
- ⑤ 冬のスポーツやレクリエーションの推進
- ⑥ 家庭との連携による規則正しい生活習慣、食育やスポーツの啓発
- ⑦ 幼児期からの体力の現状把握と運動プログラムの提供

目標指標：体力運動能力調査の得点において県平均を上回る学年の割合
現状：約4割 ⇒ 目標：すべての学年で県平均を上回る。

基本方針Ⅱ 生涯スポーツの推進

市民の誰もが、いつでも、身近なところでスポーツを継続して楽しめるよう、各年代に応じたスポーツに親しむことができる機会の提供と、環境を整備します。

【具体的方策】

(1) スポーツ環境の整備・充実

- ① 働き盛りの世代、高齢者をはじめとする各年代におけるスポーツ活動の機会の充実
- ② 地域住民同士のスポーツによる交流の推進
- ③ 魚津しんきろうマラソン大会、全日本大学女子野球選手権大会の充実・発展
- ④ ラジオ体操、ウォーキングやジョギングの推進

- ⑤ 学校体育施設の活用促進
- ⑥ 障がい者に対するスポーツの紹介や指導者の育成
- (2) 啓発活動・情報提供の充実
 - ① 育児期の女性や忙しい人向けの体カづくりの情報提供
 - ② メタボやロコモ対策等、健康寿命延伸の情報の提供
- (3) スポーツを支える組織、人材の育成
 - ① 市体育協会、地域組織、総合型地域スポーツクラブの組織強化と連携
 - ② スポーツ推進委員の育成、新たな指導者の発掘
 - ③ スポーツボランティアの募集
- (4) プロスポーツチーム等の試合の情報提供
- (5) 施設の利用促進の取り組みと整備による利用者の満足度向上

目標指標：成人のスポーツ実施率

現状：38.2% ⇒ 目標：65%程度

基本方針Ⅲ 競技スポーツの推進

底辺の拡大、指導者の育成に努め、未来のオリンピック選手の輩出を目指すとともに、ジュニア選手が、将来地域スポーツの指導者やスタッフとしての一翼を担うという、好循環の創出を目指します。

【具体的方策】

- ① 競技力向上に向けたジュニア育成、指導者研修の取り組みの支援
- ② 中学校部活動への外部指導者派遣の事業の充実
- ③ 表彰制度の活用、全国大会への出場選手激励壮行会の実施による選手の激励
- ④ 激励金の支給の実施
- ⑤ ハイレベルな試合の観戦の機会充実

目標指標：県民体育大会（二部）の順位

現状：一般9位、中学12位 ⇒ 目標：一般3位以内、中学6位以内
全国大会等への出場者数

現状：55人 ⇒ 目標：77人以上

市内生徒のうち県中学校総合選手権大会に出場する生徒の割合

現状：12.3% ⇒ 目標：16.0%

目 次

第1章 プランの概要	1
1 プラン策定の経緯	1
2 プラン策定の背景	2
3 プランの位置付け、性格	3
4 計画期間	3
5 基本目標	3
6 基本方針	3
第2章 基本方針実現のための具体的事項	4
I 子どもの体力向上	4
1 現状と課題	4
2 具体的方策	5
① 学校ごとの特色ある運動やスポーツ	
② 「みんなでチャレンジ3015」の活用	
③ 休憩時間の施設の利用	
④ スポーツクラブ、スポーツ少年団等の加入促進	
⑤ 冬のスポーツの推進	
⑥ 家庭との連携	
⑦ 幼児期の取り組み	
3 目標指標	7
II 生涯スポーツの推進	8
1 現状と課題	8
(1) スポーツ実施率	
(2) 公共スポーツ施設	
2 具体的方策	9
(1) スポーツ環境の整備・充実	9
① 各年代におけるスポーツ活動の機会の充実	
② 地域における取り組みの推進	
③ 全国的イベントの充実・発展	
④ ウォーキングやジョギングなどの推進	

⑤	学校体育施設の活用	
⑥	障がい者スポーツの取り組み	
(2)	啓発活動・情報提供の充実	11
①	忙しい人向けの情報提供	
②	メタボやロコモ対策情報	
(3)	スポーツを支える組織、人材の育成	11
①	関係団体との連携	
②	指導者の育成	
③	ボランティアの育成	
(4)	観るスポーツ	12
(5)	施設の整備	12
3	目標指標	13
III	競技スポーツの推進	14
1	現状と課題	14
2	具体的方策	15
①	ジュニア指導、指導者研修の実施	
②	運動部活動の活性化	
③	体育、スポーツ功労者の顕彰	
④	激励金の支給	
⑤	ハイレベルな試合の観戦の機会充実	
3	目標指標	16
第3章	資料編	17
I	魚津市民スポーツ意識調査の結果	17
II	魚津市生涯スポーツプラン策定委員会委員	24
III	策定の経過	25

第1章 プランの概要

1 プラン策定の経緯

魚津市では平成15年3月に、10年間を計画期間とし、平成24年度が計画の最終年度となっている「魚津市生涯スポーツプラン」を策定しました。このプランでは、誰もが生涯にわたって、スポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するため、本市のスポーツ振興の基本的な方向性を示すとともに、その目標達成のために実施すべき施策を示しました。その後、平成19年度に、計画の開始から5年間の進捗状況を踏まえ、計画の一部見直しを行いました。

国においては、平成23年6月に「スポーツ振興法」を全面改定した「スポーツ基本法」が制定され、これに基づき「スポーツ基本計画」が平成24年3月に策定されました。このスポーツ基本法の中で、都道府県および市町村は地方スポーツ推進計画を定めるよう、努めなければならないこととなりました。

富山県においても、「元気とやまスポーツプラン」が平成24年4月に策定され、新たなスポーツ文化の確立を目標としています。

このような経緯により、本市においても、これまでのプランの生涯スポーツ社会の実現という目標を継承しつつ、市民のスポーツに対する多様なニーズや期待に応え、スポーツに関する施策を計画的に推進するために、この計画を策定するものです。



魚津しんきろうマラソン大会



全日本大学女子野球選手権大会

2 プラン策定の背景

平成24年にロンドンで開催されたオリンピックで、日本は過去最多のメダルを獲得しました。その後開催されたパラリンピックでは魚津市出身選手が出場したこともあり、スポーツへの関心がより高まりました。

スポーツには大きな感動を与える力があります。東日本大震災後の女子サッカーなでしこジャパンの活躍は、震災で暗いムードに覆われていた日本中を活気付けました。魚津市でも、昭和33年に蜃気楼旋風といわれる魚津高校野球部の甲子園での活躍により、魚津大火（昭和31年）で心が沈んでいた市民に、大きな勇気と復興への活力を与えたといわれています。

現在市内では、個人やチームなどで様々な運動やスポーツが実践されており、ありそドームや総合体育館では毎日にぎやかな声が響いています。

しかしながら、本市は毎年人口が減少しており、また、平成22年の65歳以上の人口が27.8%と、全国（23.0%）、富山県（26.2%）と比べても高い率となっています。高齢化の進行に伴って、医療費や介護負担の増加が懸念されています。一方、運動をしない子どもたちの増加は、将来の全体的な競技力の低下や、大人になった時に肥満や生活習慣病患者の増加をもたらす恐れがあります。

このようなときに、日常生活の中に運動やスポーツを積極的に取り入れ、楽しむことは、市民一人ひとりの健康づくりや体力向上を促します。また、チームや友人、近所同士でのスポーツ活動や、それ以外にも試合観戦や大会でのボランティアに集えば、日常の挨拶から始まる交流の輪が広がります。家族や個人で楽しむ場合も、家族との会話や自分にとって生きがいのある暮らしに資するなど、スポーツには市民の生活に活気を溢れさせ、活力ある街づくりや地域のコミュニティづくりに重要な役割が期待されます。

人それぞれに適切な市民1人1スポーツを実践し、自主的、継続的に楽しむことで、住民同士の交流とつながりや絆を築くとともに、市民の生活と街全体に活気を生み出すために、運動やスポーツを推奨するものです。



魚津市民体育大会総合開会式

3 プランの位置付け、性格

- ① このプランは市民がそれぞれの適性、生活環境に応じて、生涯にわたってスポーツに親しむことができる社会を実現するための、基本的な方向性を示すものです。
- ② このプランはスポーツ基本法に基づくとともに、国のスポーツ基本計画、県の元気とやまスポーツプランを踏まえ、中・長期的視点に立って、総合的な施策を推進するものです。
- ③ このプランは、本市の今後10年間のスポーツ推進の方向性を示すものであり、施策の展開にあたっては、第4次魚津市総合計画との整合性を図り、推進するものです。

4 計画期間

このプランは、平成25年度から平成34年度を計画期間とし、平成29年度までを前期、それ以降を後期とし、平成29年度に見直しを行います。

また、本プランに掲げる目標指標の数値については、毎年度その達成状況の把握に努めます。

5 基本目標

「スポーツでつながろう きときと魚津のまちづくり」

6 基本方針

基本目標の実現のため、以下の3つの基本方針に基づいた取り組みを実施します。

I 子どもの体力向上

生涯にわたって健康で豊かな生活が送れるように、子どものころからスポーツを通じた体力づくり、運動の習慣化を図り、未来に夢や希望を抱ける環境を整えます。

II 生涯スポーツの推進

市民の誰もが、いつでも、身近なところでスポーツを継続して楽しめるよう、各年代に応じたスポーツに親しむことができる機会の提供と、環境を整備します。

III 競技スポーツの推進

ジュニア競技者を中心とする競技力の向上をはかり、夢や感動を与えるスポーツの魅力を市民に伝えていきます。

第2章 基本方針実現のための具体的事項

I 子どもの体力向上

1 現状と課題

近年、スポーツ活動に積極的に参加する子どもと、全く参加しない子どもとの二極化が進んでいるといわれています。また、全国的に昭和60年ごろをピークに、子どもの体力は低下傾向にあり、近年は低下に歯止めがかかったといわれておりますが、次世代を担う子どもの運動嫌い、中高生以降の競技力の低下や、大人になってからの生活習慣病の増加や、ストレスに対する抵抗力の低下などを招き、医療費の増加や、社会全体の活力低下をもたらすおそれがあります。

子どもたちの体力低下は本市においても同様で、国が行う体力・運動能力調査において県平均を下回る学年が多くあり、小学生では長座体前屈と立ち幅跳び、中学生では反復横とびが県内平均と比較して特に劣っています。(表1参照)

また、中学校部活動で運動部に所属する生徒数はここ数年横ばい状態(平成24年度の加入率79.5%)ですが、主に小学生が加入しているスポーツ少年団は、少子化による団員不足から隣接地域との合同チームとなるなど団数と加入率がわずかでありますが低下しております。(表2参照)

子どもたちのスポーツ離れを食い止めるため、日常生活の様々な場面において、身体を動かすことが苦にならない、スポーツが好きな子どもを育てなければなりません。また、小学生の時期は、身体の神経系の成長が完成に近づいていくことから、この時期に様々な運動遊びやスポーツを経験させることにより、将来にわたって巧みな動きが習得しやすくなるともいわれております。このことは、大人になっても様々なスポーツを楽しむことができるとともに、競技力向上のためにも大切なことです。

これらのことから、幼児期からの子どもたちの運動の機会を確保するために、行政、学校、家庭、地域、関係機関が連携して取り組む必要があります。また、児童生徒が自ら進



子どもの体力向上啓発事業

んで、運動やスポーツの実施、体力の向上に努められるような取り組みも必要です。

表1 体力運動能力調査結果（平成24年）における得点の比較

（富山県内児童生徒と魚津市内児童生徒の得点平均の比較）

【小学生】

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
富山県	30.80	31.21	38.39	39.15	44.30	44.48	50.14	50.64	55.07	55.89	61.03	61.17
魚津市	30.05	31.70	38.72	39.11	43.99	44.21	48.69	50.06	55.21	57.38	60.95	62.02

【中学生】

	1年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
富山県	34.31	44.24	43.32	48.78	49.76	51.57
魚津市	34.50	43.69	43.56	46.38	52.12	51.12

網掛けは県平均を下回る得点

表2 魚津市スポーツ少年団団員数推移(小学生)

	17年度		20年度		23年度		24年度	
	団数	団員数	団数	団員数	団数	団員数	団数	団員数
合計	43	949	39	919	39	874	38	758
児童数	2,421		2,410		2,356		2,320	
加入率	39.2%		38.1%		37.1%		32.7%	

24年度数値は11月末現在

2 具体的方策

子どもの体力低下傾向に歯止めをかけ、体力向上を図るとともに、子どもたちがスポーツを通じて、他者との協同や公正さと規律を学びながら、健全に成長する一助となるような取り組みに努めます。

① 学校ごとの特色ある運動やスポーツ

小中学校ごとに特定の運動やスポーツを選び集中的に行い、また運動の成果発表会や、練習の方法や上手くなるコツを研究した研究発表会を開催することで、運動やスポーツの

練習の仕方や、体の動かし方などについて関心を持たせる取り組みに努めます。

② 「みんなでチャレンジ3015」の活用

小学校における児童の体力向上に向けた取り組みとして、体力づくりノート「みんなでチャレンジ3015」を積極的に活用し、目標を持って意欲的に体力づくりができるよう、関係機関と連携を図っていきます。

③ 休憩時間の施設の利用

小中学校の休憩時間における、体育館やグラウンド利用について、児童生徒が積極的に利用するよう、工夫した取り組みを行います。

④ スポーツクラブ、スポーツ少年団等の加入促進

スポーツ少年団をはじめとする地域のスポーツクラブの情報を発信し、加入の促進に協力します。

⑤ 冬のスポーツの推進

雪国であることを生かした、冬のスポーツやレクリエーションの推進に努めます。

⑥ 家庭との連携

体力向上のためには健康な体であることが必要です。家庭での正しい生活習慣や食生活により、丈夫な身体を確保するために、食育事業をはじめ家庭での運動やスポーツの啓発に関係機関と取り組み、家庭との連携を図ります。

⑦ 幼児期の取り組み

保育園等での体力テスト等の実施により幼児の体力の現状を把握し、遊びながら出来る必要な運動プログラムの提供により、幼児期からの体力向上を図ります。



チャレンジデーで全校鬼ごっこ



市民スキー教室

3 目標指標

指 標	現 況 (平成24年)	平成29年目標	平成34年目標
体力運動能力調査の得点において県平均を上回る学年(男女別)の割合	44.4% [県平均を上回る学年] 小学 1年女子、2年男子 5年男子、5年女子 6年女子 中学 1、2、3年男子	66.7% 全体の3分の2の学年で県平均を上回る。	100% すべての学年で県平均を上回る。



魚津市武道合同稽古始め



魚津市スポーツ少年団総合結団式